



夏の終わりも彩る
アサガオの花。

アサガオ *Pharbitis nil* Choisy (ヒルガオ科)

アサガオ

8月が終わってもまだ暑い日が続く
中、アサガオの漏斗型の花が7月から
長い間咲き続けています。

「アサガオは育てたことがある。」とい
う方は多いのではないだろうか。

アサガオはヒルガオ科の一年草で、小
学校の理科の観察教材としておなじみ
の植物です。夏休み前に授業で育てた
ものを自宅へ持ち帰って観察したとい
う思い出がある人もいるでしょう。

暮らしに馴染み深いアサガオですが、
原産地は熱帯地域だと考えられてい
ます。日本には平安時代に中国から
薬用植物として輸入され、後に園芸的
に用いられるようになったと言われて
います。また、奈良時代に遣唐使が持
ち帰った説もあり、古くから利用され
ていることが分かります。

秋になると果実から黒い種子がとれ
ます。この種子が牽牛子(ケンゴシ)と
いう生薬になり、下剤として用いられ
ます。作用が強いため、使用には医師
や薬剤師の指導が必要です。

アサガオの花は浴衣や扇子などの図
柄として描かれ、季節感を演出してく
れます。園芸的にも様々な色や形の花
が作り出されています。

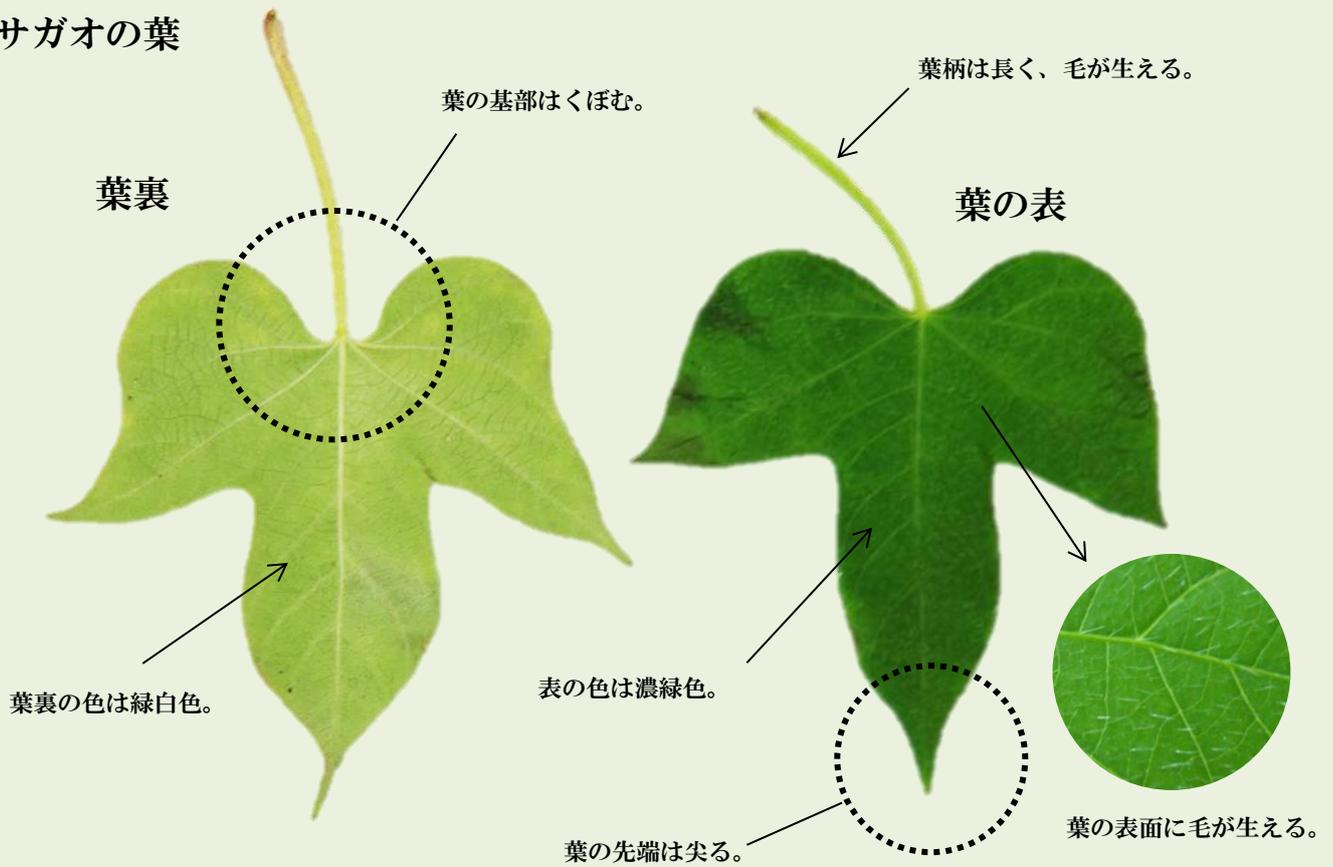
薬用や園芸、教材や図柄までアサガ
オは文化に深く根付いています。



アサガオをじっくり観察してみましょう。



アサガオの葉



アサガオの葉の葉身は3裂することが多いです。



アサガオの茎

茎には短毛があるのが特徴です。
つる性で支柱などに巻き付いて伸びていきます。



アサガオの蕾

花冠が、らせん状に巻いて折りたたまれているように見えます。



アサガオの種子

6 mmくらいの大きさの種子。黒色をしており、硬いです。種子は生薬になります。



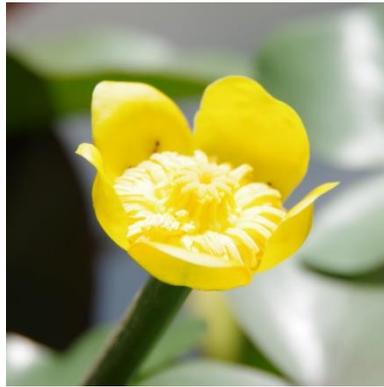
PHOTO GALLERY

— 御陵園の植物写真 —



ゲンノショウコ（フウロソウ科）

地上部が現証拠（ゲンノショウコ）という生薬になり、整腸、止瀉に用いられる。日本各地に自生する多年草。



コウホネ（スイレン科）

根茎が川骨（センコツ）という生薬になり、強壯、止血に用いられる。日本各地に分布する多年生の水生植物。



キンミズヒキ（バラ科）

開花期の全草が竜牙草（リュウガソウ）という生薬になり、下痢止めに用いられる。東アジア各地に分布する多年草。



ダイダイ（ミカン科）

未熟な果実を観察できる。未熟果実は枳実（キジツ）という生薬になり、芳香性苦味健胃薬に用いられる。



トウガン（ウリ科）

50 cmほどの果実を観察できる。果実の中に入っている種子が冬瓜子（トウガシ）という生薬になり、利尿に用いられる。



ワレモコウ（バラ科）

根茎が地榆（チュウ）という生薬になり、止血、収斂薬に用いられる。アジア、ヨーロッパに分布する。



オミナエシ（オミナエシ科）

根が敗醬（ハイショウ）という生薬になり、利尿、解毒、排膿に用いられる。多年草で、秋の七草の一つ。



クコ（ナス科）

花を観察できる。果実が枸杞子（クコシ）という生薬になり、強壯に用いられる。果実は食用にもされる。



カワラケツメイ（マメ科）

地上部が山扁豆（サンペンズ）という生薬になり、利尿や整腸に用いられる。日本各地に分布する一年草。